社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和08年05月29日

計画の名称	平塚市都市公園整備計画		
計画の期間	平成３１年度　～　令和０５年度　(5年間)	重点配分対象の該当	
交付対象	平塚市		
計画の目標	都市公園等の社会資本はその機能、役割のほか、災害時の避難や物資運搬の拠点等重要な役割も担っている。しかし、多くの施設は老朽化が顕著で、通常の利用に支障をきたす恐れが高まっているのが現状である。 それらの社会資本を長寿命化計画を基に、危険度重要度の高いものから順次整備し、市民の安全・安心を確保する。 また、ユニバーサル遊具の設置や親子で休憩できるスペース等、多様な世代の集いの場となる環境づくりの推進を通じ、様々な人や世代が、安心して自然に交流できる公園の整備を進める。 さらに、湘南海岸公園内に、龍城ケ丘ゾーンに整備する公園、ビーチパーク、漁港の３つのエリアを結ぶ園路を整備することにより回遊性を向上させ、各エリアの魅力を発信し、海岸エリア全体の魅力アップを図る。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	1,823	A	1,823	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（H31当初）	（R3末）	（R5末）
1	公園施設長寿命化計画に基づく対策を実施し、長寿命化対策済の施設の割合を０%から４%に増加させる。			
	総合公園長寿命化対策済施設率 （平塚市総合公園長寿命化対策済施設数／平塚市総合公園長寿命化対象施設数）×１００%	0%	2%	4%
2	子どもやその親世代の利用者を100人/日（整備前）から200人/日（整備後）に増加させる。			
	子どもやその親世代の利用者数を測定する	100人/日	150人/日	200人/日
3	市民一人当たりの公園面積を5.53㎡/人から5.54㎡/人にする。			
	市民一人当たりの公園面積を5.53㎡/人から5.54㎡/人にする 都市公園面積／都市計画区域内人口	553㎡/100人	㎡/100人	554㎡/100人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000719662

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H31	R02	R03	R04	R05	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	－	－	平塚市都市公園安全・安心対策事業	長寿命化対策	平塚市	■	■	■	■	■	1,052	2.67	策定済
		総合公園課																	
	A12-002	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	－	－	都市公園事業	ユニバーサル遊具の整備、園路の再整備	平塚市			■	■	■	273		策定済
	A12-003	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	－	－	都市公園事業（海岸エリア）	園路整備	平塚市				■	■	498	3.37	策定済
		みどり公園・水辺課																	
											小計						1,823		
											合計						1,823		

案件番号： 0000719662

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
社会資本整備総合交付金交付要綱（令和7年12月16日最終改正）及び社会資本整備総合交付金に係る計画等について（令和5年9月22日改正）等に基づく事後評価の実施。	令和8年3月
	公表の方法 市のホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・本事業の基幹事業である平塚市都市公園安全・安心対策事業においては、長寿命化対象施設が膨大なため目標値の設定は低くなったが、社会資本整備総合交付金の活用により修繕や更新を実施し社会資本としての都市公園施設の整備を進めることができた。また、事業実施期間に設定した成果目標値としての最終目標値を達成し、市民が安全にかつ安心して利用できる公園の整備が図られた。 ・多様な世代の集いの場となる環境づくりを目指すユニバーサル遊具の設置推進を通じ、様々な人や世代が安心して自然に交流できる公園の整備に基づく設計及び着実な着手につなげ、期待値を上げることによって集客数の向上に結び付けた。 ・公園を整備したことにより、市民が身近に利用できる公園空間が拡充され、生活環境の向上が図れた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

本計画終了後も市民が安全にかつ安心して利用できる都市公園としての機能の充実を図り、併せて市民の満足度の向上を図るため、長寿命化計画や、公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画などを基に、引き続き社会資本整備総合交付金を活用し公園施設の整備を推進していく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	総合公園長寿命化対策済施設率		
	最　終 目標値	4%	
	最　終 実績値	4%	
2	1日に子どもやその親世代の利用者数		
	最　終 目標値	200人/日	
	最　終 実績値	200人/日	
3	市民一人当たりの公園面積率		
	最　終 目標値	554㎡/100人	
	最　終 実績値	557㎡/100人	